

令和4年度 学術・調査委員会 活動報告

令和4年度下半期 学術・調査委員会活動報告

担 当 理 事：木下義晶、高橋義行
委 員 長：古賀友紀 副委員長：高間勇一
委 員：勝見良樹、五味玲、古賀友紀、磯田健志、
成田敦、日野もえ子、福島紘子、岩田慎太郎
オブザーバー：田尻達郎、笹原洋二、加藤実穂

活動報告と予定

1) 症例登録事業

2) 疾患登録年次報告体制の整備

2023年5月31日締め切りにて学会疾患登録をすすめた。

今後、
・学会およびHP公開にむけて集計を行う。

・登録項目に基づいた解析について血液腫瘍・非腫瘍性疾患、および固形腫瘍のWGにて検討を進める。

・現状の業務に加え、2022年学術集会シンポジウムで示された課題について、それぞれ担当を設定し、JCCGとも連携しながら、計画的にとりくむ。

3) 症例登録事業の倫理審査体制の管理

施設倫理審査および中央一括倫理審査の管理を継続した。

4) 関連班研究との連携

班研究としての連携はなかった。

5) 疾患登録データ利用申請への対応

2022～2023年審議案件について承認した。

「本邦における乳児期発症急性リンパ性白血病の発症実態、臨床試験登録状況、および予後に関する検討」

「JPLSG 中央病理診断で非腫瘍性病変もしくはリンパ増殖性疾患と診断された症例の後方視的調査」

上記案件を通して、下記について2023年4月5日研究審査委員会との合同会議を行った。

【確認事項】

・JSPHOの研究審査の流れについて

① 研究審査の流れについて学会員に再周知が必要

② 学会疾患データ二次利用研究の情報公開について

③ 二次利用研究のデータ提供のあり方

データ提出の妥当性は学術調査委マターだが、研究内容の妥当性は研究審査委の関与が必要

④ 学会員の連絡先の提供について

・学術・調査委員会と研究審査委員会における研究審査の役割の調整

・今後申請する研究者への周知の方法

文責：古賀友紀